

CCBA 合格体験記

NEC ソフト株式会社

新富 啓明

当社の上司が IIBA 日本支部の代表理事をしていることと、私自身も社内の超上流や BA の人材育成業務を担当していることから、半ば業務の一環として CCBA の出願をすることとなりました。代表理事のお膝元にいることもあって少なからずプレッシャーがかかっていましたが、何とか面目を保つことができ安心しております。

また、今回の CCBA 試験を実行するに当たってご尽力頂いた IIBA 日本支部認定担当理事の中西さんをはじめ、多くの方に感謝いたします。

本合格体験記は合格までの個人の取組みや印象をつづったものなので、皆様のお役にたてるかどうかわかりませんが、ご参考まで、記載させていただきます。

【出願対応】

出願方法は、IIBA 日本支部の CCBA&CBAP 説明会に参加して、ほぼ必要な知識を得ることができた。一から自分で調べていたらかなりの手間であったと考えられるので、大変ありがたいと思った。

特に、業務経験要件の記述ポイントを参考にさせて頂き、業務要件と知識エリアを棚卸できるようにエクセル表を作成した。ビジネスアナリシスとしての業務経験として、以前、客先のマネジメントシステムのコンサルティングや要件定義のコンサルティングを実施していたことと、社内の人材育成に関する要件の取りまとめをしていたことで必要な業務時間を積算できた。

推薦人は、現在の上司と IIBA の理事である庄司さんに依頼した。現在の上司は、コンサルを実務として担当していた頃の上司でもあり、現在の上司でもあるため、業務内容の監査があっても回答できるであろうと判断した。また、庄司さんは IIBA の研究部会の WG でもお世話になっていたことから、推薦人をお願いした。

7/29 の午前中にいざ出願した後、いつまでたっても返事が来ない。恐らく、初めての日本語試験であったことと、大量の出願があっても対応できない状況であると考えられたが、申請したら直ぐに受領されたとの話も耳にしていたので、「50 名の試験枠に入れるのか??」と気が気でなかった。(当初、日本語試験の出願枠が 50 名で打ち切られると予定されていた。後に、枠が撤廃された)

8/3に、結果はさておき、申請が受領されているのかどうかは教えてほしい、との思いで IIBA 本国の認定担当にメールを送付した。それに対して、やっと 8/8 に、以下のようなそっけない（事務的な？）メールが送られてきた。

"The turnaround time for assessing applications is 21 business days. We will do the best that we can to assess your application asap."

「50名の試験枠があるから、そんなにゆっくり構えられてしまったら困る！」と思ったが、これ以上あおっても仕方がないと、暫く考えないようにした。

結局、受理された旨、IIBA 本国の認定担当から返信があったのが、8/16の夜 20:00 頃。後は勉強するのみ、とひとまず安心することができた。

【受験準備】

受験準備は、11月頃から開始し、社内の勉強会（2時間程度を3回）、業務時間後と休日に、EEPの問題集と市販の問題集を解きながら、不明な部分についてはBABOKを読み込むという方式で進めていった。（富士ゼロックスの伊藤衡さんが、研修の中で説明されていた方法を踏襲した）

問題集は150問を3回、100問を大体3回ずつ解き、都度不明な部分についてBABOKに付箋とマーカーを引いていった。結果として、今まで理解が不十分なところや、読み飛ばしていたような部分にもマーカーが引かれ、手持ちのBABOKが「読み込んだ雰囲気」となった。（一旦は一から全部読もうと意気込みかけたが挫折した。しかし、問題を解いてできていない所を読み込むことでBABOKをほとんど読むこととなった）

各知識エリアのうち、引き出し系のテクニックについてはBABOKを読んで、実務と照らし合わせながら具体的なビジネスアナリシスの作業をイメージした（BABOKで書かれているこの部分は、実務ではこういうことを言っている、といった要領）。モデリング系のテクニックは、UMLやDFD、ERDを中心に、こちらも具体的な要件定義や設計への落とし込みを意識して、書籍などで整理した。これらについては、社内での勉強会において解説や議論ができるように準備したことも役に立った。

また、プロジェクトマネジャーの仕事とビジネスアナリストの仕事に分けて考えるという意識づけるようにした。友人がアメリカでBAをやっていたことがあり、その彼女

から、BA とはこのようなものであり、PM やスポンサー、テスター、開発者とどのような役割分担で活動していくか、という話を聞いていたことも、ビジネスアナリシスをイメージする助けになっていたと思われる。日本の実務では、特に重複しているところはどこなのか、また、それらを切り分けるにはどうするべきか、といったことも考えながら、受験準備を進めた。

【受験当日】

11/26 に CCBA 受験。当日は平日と同じように起床して、頭が働くように、敢えて問題を 100 問ほど解いて、BABOK を確認してから会場へ向かった。会場へは 40 分ぐらい前に到着して、待合室でしばし待機。BABOK や問題集を見ようかとも悩んだが、下手に触れて慌てないように何もしないことにした。

ペーパー試験のため、説明が少々長かったことや、財布やハンカチまでも窓際に素のまま置きという突拍子もない（笑）指示があったものの、試験開始までの段取りはおおむね問題なく進んだ。筆記用具は持ち込めなかったので、鉛筆が支給されたが、ついている消しゴムが消しにくかったのはいただけなかった。

試験開始は、13:30 開始予定を 25 分ほど過ぎた 13:55 頃となった。試験開始後、最初の 2 問ぐらいが正直「ぎょっ」とした。即答できるような問題集の問題に慣れてしまっていたので、頭を使う内容が冒頭に出てきて頭が働かなかったことが原因であるが、落ち着いて考えれば解けない問題ではなかった。（いろいろな方に話を聞いても、最初の 20 問ぐらいまでは、皆さん焦った、もしくは、それにより頭が真っ白になったとのこと）

以後、「うーん」と迷ったところはちょうど 30 問、それ以外は即決（合っていないかもしれないけど、下手な見直しをしない）というやり方で進め、150 問終了して約 2 時間。（35 問／35 分⇒50 問／50 分⇒100 問⇒90 分⇒140 問／120 分というようなペース。50 問まではペースがあがらなかったが、51 問目以降ぐらいからは、問題集で出ていたようなものや即決系が多く、ペースが上がった。）

30 問の見直しとマーク記入ミス（1 問マークをミスっていた）のチェックを 30 分ぐらい行って「後は野となれ山となれ」と会場を後にした。（その時点で会場に半分ぐらいの方が残られていた気がする）

合否の感触として、「??」の 30 問を除いた 120 問が誤認識していなければいけそうな気がしたが、改めて BABOK や問題を見直していると、「あれ？間違っただけ回答したかも」と

いう不安がよぎった。いずれにしても後の祭りではある。

自分なりにしっかり勉強してきたことと、今までの積み重ねが生きていると思うので、受かると良いが（この時点では、結果は1月ぐらいに判明する予定と聞いていた）。

【問題に対する印象】

35問ぐらいまでは、ビジネスアナリシスの要諦を掴んでいることを前提とした頭を使う問題が多かった。以降は問題集をやっていたら解けるような即答問題が多かった印象がある。知識エリアについては、ビジネスアナリシスの計画とモニタリングから基礎コンピテンシまで幅広く出題されていたと思う。また、それぞれの要素やテクニックがどのような場面でどのように使われるのか整理できている必要があるように感じた（具体的なビジネスアナリストの作業イメージを持てているか）。

思い込みや試験問題から勝手にイメージしてしまっているようなビジネスアナリシス・ビジネスアナリスト像を払拭する意味で、BABOKをしっかりと読んでおいたことが合格に繋がったと思う。

【合格メール受信】

合格メールは2011/12/30(金)1:02に到着。一時、本国のクリスマス休暇前に結果が送られるのではないかとの噂を聞きつけたが、メールが到着せず結局、年を越しての結果確認となった。

メールのサブジェクトが”CCBA Recipient Package Coming Soon”となっており、一瞬、合格メールなのかどうか良く分からなかったが、メール本文の

” On behalf of the International Institute of Business Analysis (IIBA) Certification Body, we are happy to inform you that you passed the CCBA® Japanese exam given on November 26, 2011. “

を読み、合格したことを確認できた。ちなみに、本メールの中には合格点や書く知識エリアの到達度などの情報は特になく、認定証とケースとあちらの試験によくあるピンバッジが送られるということぐらいしか書いていなかった。認定証などは再認定を受けるまでの3年間有効であるような旨かかれていたのは気になるが。

以上、簡単ですが、合格体験記でした。